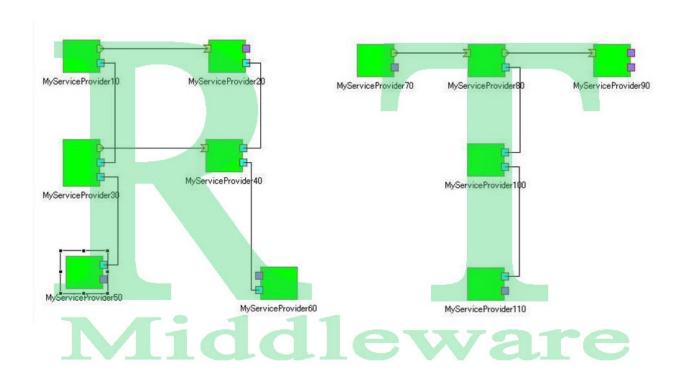
RT コンポーネント用 コネクタモジュール取扱説明書

Version 1.0

(There is an English version, too)



目次

- 1. 特長と利点
- 2. 開発環境
- 3. 使用方法
- 4. 使用例
 - (ア) Data Port 間の接続(例: SimpleIO)
 - (イ) Service Port 間の接続(例: SimpleService)
 - (ウ) Data Port / Service Port を持つコンポーネントの接続
 - (工) 複数の Naming Service を使用する場合
- 5. 実装方法
 - (A) Naming Service の入力
 - (B) 起動したコンポーネントリストの入力
 - (C) 各ポートへの変数の割り当て
 - (D) ポートの接続
 - (E) 各コンポーネントへの変数の割り当て
 - (F) コンポーネントの起動方法
- 6. Q&A
- 7. 資料 (モジュールツリー)

1. 特長と利点

- ・ このコネクタモジュールは、通常 rtc-link 上から操作していた"ポート間の接続" と "アクティビティの変更"をコンソール上から行うことが可能です.
- ・ python や CORBA を意識せずに、任意のコネクタモジュールを作成することができます。また、基本的に1ファイルでコネクタモジュールを新規作成できます。
- ・ このコネクタモジュールを使用することにより、デバッグの度にコンポーネント を接続する煩わしさや、多数のコンポーネントを立ち上げる手間を大幅に削減す ることができます.

2. 開発環境

2007年11月現在、このモジュールは以下のシステム構成になっています.

- > OS : Vine3.2 (kernel 2.4.31-0v11.8smp)
- > CPU : Intel Pentium D (2.8GHz)
- ➤ Memory : 2.0GB
- > RT-Middleware のバージョン: OpenRTM-aist.0.4.1-RELEASE
- **▶** Python のバージョン: python02.3.4-0v18.1
- ➤ omniORBpy のバージョン: omniORBpy-2.7-1

3. 使用方法

この章では、ConnectorModule を入手してから使用するまでの流れを説明します. ※ ホスト名:ufrg01、ユーザ名:ufrgで行った場合の例を示しています.

- 1. ConnectorModule.tar.gz を入手する.
- 2. 任意ディレクトリを作成する (以降<WorkDIR>とする)
- 3. <WorkDIR>に、tar.gzファイルを展開する.
 - ※ 例では test ディレクトリに展開している.

```
[ufrg@ufrg01 test]$ ls
ConnectorModule.tar.gz
[ufrg@ufrg01 test]$ tar xzvf ConnectorModule.tar.gz
```

4. 展開してできた ConnectorModule ディレクトリに 3 つのディレクトリができている ことを確認する. 各ディレクトリの構成は 18 ページの補足資料に示すツリーのと おりです.

```
[ufrg@ufrg01 test]$ Is
ConnectorModule/ ConnectorModule.tar.gz
[ufrg@ufrg01 test]$ cd ConnectorModule
[ufrg@ufrg01 ConnectorModule]$ Is
common/ example/ tutorial/
[ufrg@ufrg01 ConnectorModule]$ |
```

コネクタモジュール例のディレクトリへ移動する.
 データポート用コネクタモジュール,サービス用コネクタモジュールなど4つのディレクトリが確認できる.

- 6. 別ウインドウにて、OpenRTM-aist-0.4.1 のサンプルコンポーネントを起動する. (例:SimpleIO のコンポーネント ConsoleInComp, ConsoleOutComp など)
- 7. コンポーネントを起動後,実行したコンポーネントに適したモジュールの シェルを実行する.

例: SimpleIO の場合,

以下のように DataPort ディレクトリのモジュールを実行する.

```
[ufrg@ufrg01 example]$ Is
DS/ DataPort/ NamingServices/ ServicePort/
[ufrg@ufrg01 example]$ cd DataPort/
[ufrg@ufrg01 DataPort]$ Is
DataConnector.py m.sh* run.sh*
[ufrg@ufrg01 DataPort]$ ./run.sh
```

4. 使用例

- (ア) Data Port 間の接続(例: SimpleIO)
- 1. 任意のネーミングサービスを起動する.

[ufrg@ufrg01 ufrg]\$ rtm-naming

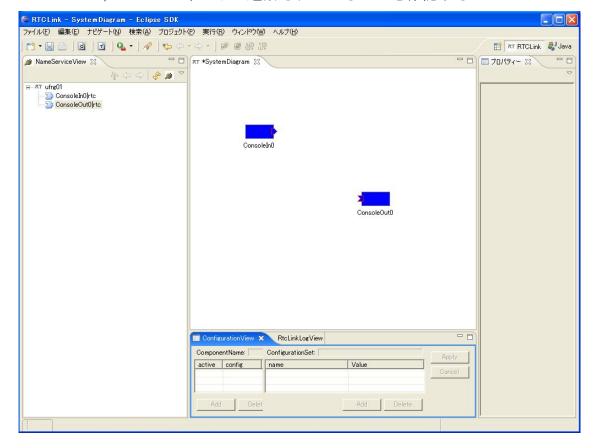
2. ConsoleIn コンポーネントを起動する.

[ufrg@ufrg01 SimpleIO]\$./ConsoleInComp -f rtc.conf

3. ConsoleOut コンポーネントを起動する.

[ufrg@ufrg01 SimpleI0]\$./ConsoleOutComp -f rtc.conf

4. rtc-link 上で, コンポーネントが起動されていることを確認する.



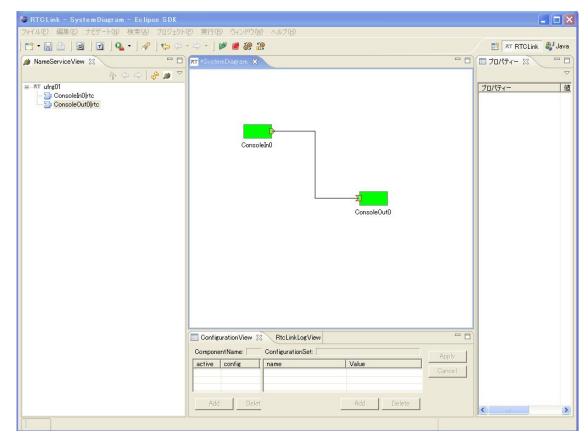
5. データポート用コネクタモジュールのディレクトリへ移動する.

```
[ufrg@ufrg01 test]$ cd ConnectorModule/example/
[ufrg@ufrg01 example]$ ls
DS/ DataPort/ NamingServices/ ServicePort/
[ufrg@ufrg01 example]$ cd DataPort/
```

6. python ファイルを実行する.

```
[ufrg@ufrg01 DataPort]$ Is
DataConnector.py m.sh* run.sh*
[ufrg@ufrg01 DataPort]$ ./run.sh
```

7. rtc-link 上でコンポーネントが接続されたことを確認できる.



- (イ) ServicePort 間の接続(例: SimpleService)
- 1. 任意のネーミングサービスを起動する.

[ufrg@ufrg01 ufrg]\$ rtm-naming

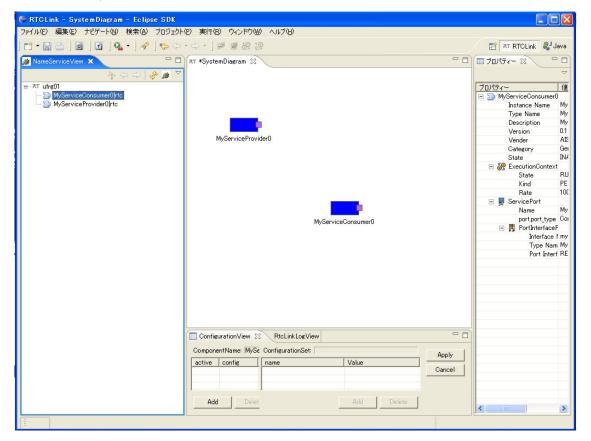
2. SimpleServiceProvider を起動する.

[ufrg@ufrg01 SimpleService]\$./MyServiceProviderComp -f rtc.conf

3. SimpleServiceConsumer を起動する.

[ufrg@ufrg01 SimpleService]\$./MyServiceConsumerComp -f rtc.conf

4. rtc-link 上で, コンポーネントが起動されていることを確認する.



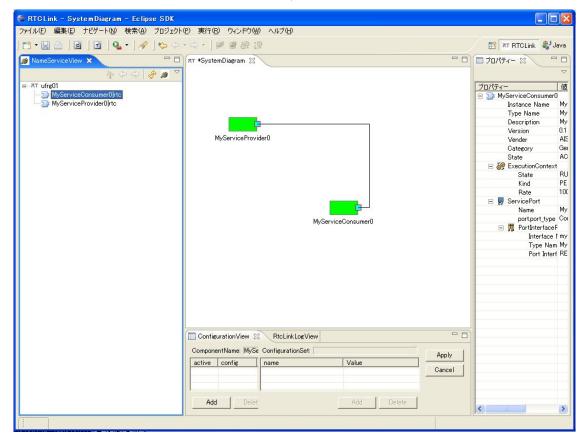
5. サービスポート用モジュールのディレクトリへ移動する.

```
[ufrg@ufrg01 test]$ cd ConnectorModule/example/
[ufrg@ufrg01 example]$ ls
DS/ DataPort/ NamingServices/ ServicePort/
[ufrg@ufrg01 example]$ cd ServicePort/
```

6. python ファイルを実行する.

```
[ufrg@ufrg01 ServicePort]$ Is
ServiceConnector.py m.sh* run.sh*
[ufrg@ufrg01 ServicePort]$ ./run.sh
```

7. rtc-link 上でコンポーネントが接続され、Activate されたことを確認する.



- (ウ) DataPort / ServicePort を持つコンポーネントの接続
 - ※ 事前に DataPort×1 と ServicePort×1 を持つコンポーネントを1組用意する. 例では、

OutPort×1 と ServiceProvider×1 を持つ MyServiceProvider と InPort×1 と ServiceConsumer×1 を持つ MyServiceConsumer を用意している.

1. 任意のネーミングサービスを起動する.

[ufrg@ufrg01 ufrg]\$ rtm-naming

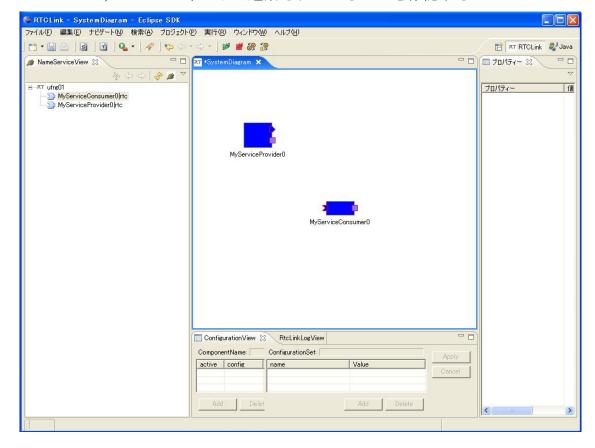
2. SimpleServiceProvider を起動する.

[ufrg@ufrg01 Data_Service]\$./MyServiceProviderComp -f rtc.conf

3. SimpleServiceConsumer を起動する.

[ufrg@ufrg01 Data_Service]\$./MyServiceConsumerComp -f rtc.conf

4. rtc-link 上で, コンポーネントが起動されていることを確認する.



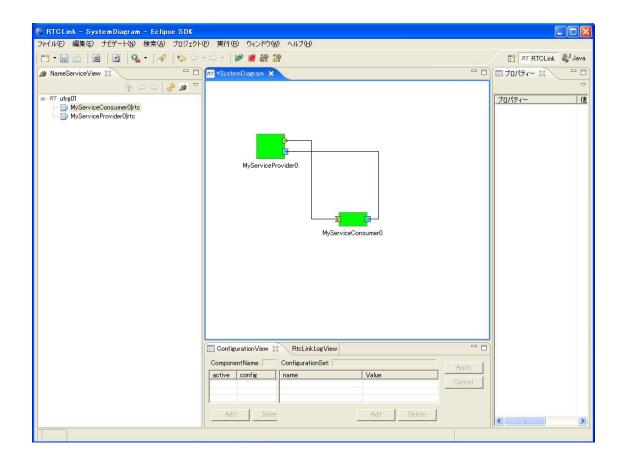
5. データ/サービス用モジュールのディレクトリへ移動する.

```
[ufrg@ufrg01 test]$ cd ConnectorModule/example/
[ufrg@ufrg01 example]$ ls
DS/ DataPort/ NamingServices/ ServicePort/
[ufrg@ufrg01 example]$ cd DS/
```

6. python ファイルを実行する.

```
[ufrg@ufrg01 DS]$ ls
DS_Connector.py m.sh* run.sh*
[ufrg@ufrg01 DS]$ ./run.sh <mark>|</mark>
```

7. rtc-link 上でコンポーネントが接続され、Activate されたことを確認する.



(エ) 複数の Naming Service を使用する場合

Naming Service 1:ホスト名:ufrg01, ユーザ名:ufrg Naming Service 2:ホスト名:ufmrp02-arm, ユーザ名:ufrg

1. Naming Service 1 を起動する.

(例では, ホスト ufrg01 ユーザ ufrg が Naming Service を起動)

[ufrg@ufrg01 ufrg]\$ rtm-naming

2. SimpleServiceProvider を起動する.

[ufrg@ufrg01 SimpleService]\$./MyServiceProviderComp -f rtc.conf

3. NamingService 2 を起動する.

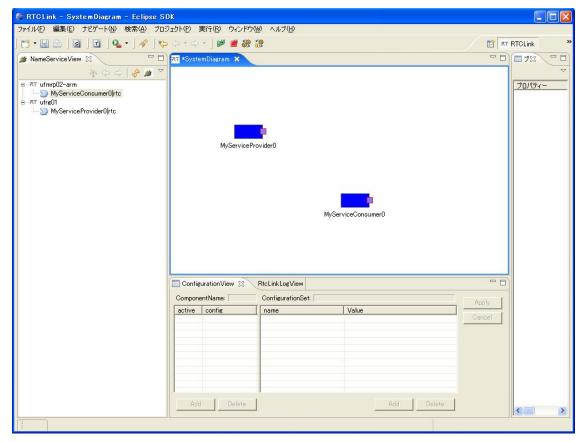
(例では, ホスト ufmrp02-arm ユーザ ufrg が Naming Service を起動)

[ufrg@ufmrp02-arm ufrg]\$ rtm-naming

4. SimpleServiceConsumer を起動する.

[ufrg@ufmrp02-arm SimpleService]\$./MyServiceConsumerComp -f rtc.conf

5. rtc-link 上で, 各 Naming Service 上においてコンポーネントが起動されていることを確認する.



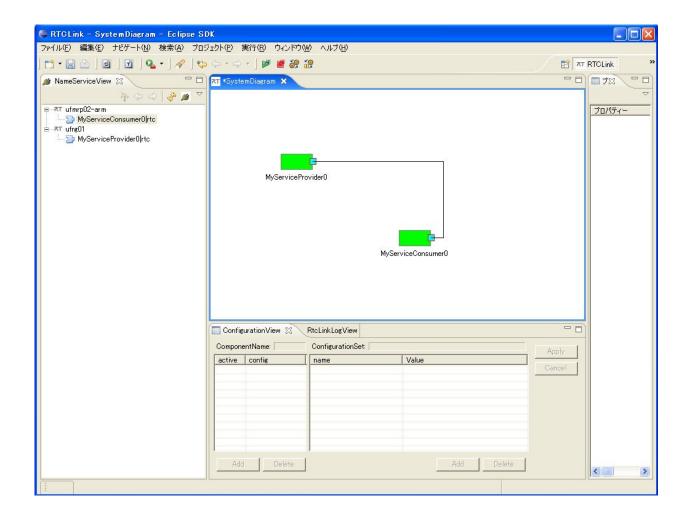
6. 複数の NamingService 用モジュールのディレクトリへ移動する.

```
[ufrg@ufrg01 test]$ cd ConnectorModule/example/
[ufrg@ufrg01 example]$ ls
DS/ DataPort/ NamingServices/ ServicePort/
[ufrg@ufrg01 example]$ cd NamingServices/
```

7. python ファイルを実行する.

```
[ufrg@ufrg01 NamingServices]$ Is
NS_Connector.py m.sh* run.sh*
[ufrg@ufrg01 NamingServices]$ ./run.sh
```

8. rtc-link 上でコンポーネントが接続され、Activate されたことを確認する.



5. 実装方法

この章では、任意のコンポーネント用モジュールの実装方法を紹介します. 例として、DataPort モジュールのソースファイル DataConnector.py を示します.

```
rom Connector_Header import *
def get_comp_info():
   for j in range(len(comp_lists)):
    Components[j] = a.GetObjectReference(comp_lists[j+1])
    Lists[j] = a.GetPortsObject(Components[j])
    Activity[j] = a.GetExecutionContextServices(Components[j])
       print 'PortLists of the [',comp_lists[j+1],'] are as follows\n'
       for p in Lists[i];
           print 'Lists[',i,'] =',p.get_port_profile().name
a = RTCConnector()
a.Connect2Nameservice("ufrg01.a02.aist.go.jp:28
a.GetComponentLists()
 Please write your component lists in "comp_lists
                                                       В
comp_lists = { 1:'ConsoleInO', 2:'ConsoleOutO'
get_comp_info()
 Please ready the connect
                                                       С
.PortConnect(con_in[0],con_out[0])
 Please ready the activate
                                                       Е
act_in[0].activate_component(Components[0])
act_out[0].activate_component(Components[1])
```

事前準備:pythonファイルを開く.

ここでは、DataPort のモジュールファイルを test ディレクトリにコピーして編集します.

```
[ufrg@ufrg01 example]$ Is

DS/ DataPort/ NamingServices/ ServicePort/
[ufrg@ufrg01 example]$ mkdir test
[ufrg@ufrg01 example]$ cp DataPort/* ./test/
[ufrg@ufrg01 example]$ cd test/
[ufrg@ufrg01 test]$ Is
DataConnector.py m.sh* run.sh*
[ufrg@ufrg01 test]$ jed DataConnector.py
```

(A) Naming Service の入力

使用するネーミングサービスを入力します. 下の例では"ufrg01.a02.aist.go.jp:2809"を入力しています.

(B) 起動したコンポーネントリストの入力

起動した全コンポーネントを入力します. 下の例では, Open-RTM-aist のサンプル SimpleIO なので, "ConsoleIn0" "ConsoleOut0"となっています.

(C) 各ポートへの変数の割り当て

各ポートに任意の変数を割り当てます. 下の例では, ConsoleIn コンポーネントの Inport を con_in, ConsoleOut コンポーネントの Outport を con_out としています.

(D) ポートの接続

(エ)で割り当てた各ポートの変数間を接続します. 下の例では, ConsoleIn の con_in と CosoleOut の con_out を接続しています.

(E) 各コンポーネントへの変数の割り当て

各コンポーネントに任意の変数の割り当てを行います. 下の例では, ConsoleIn コンポーネントを act_in, ConsoleOut コンポーネントを act_out としています.

(F) コンポーネントの起動方法

コンポーネントを Activate します. 下の例では, ConsoleIn である act_in と ConsoleOut であるを act_out を Activate しています.

6. Q&A

- Q. Windows 上でも使用可能ですか?
- A. 可能です. Windows XP 上にて動作確認致しました.
- Q. 各ポートの接続を解除することはできますか?
- A. 可能です. 例えば DataConnector.py の場合, "a.Disconnect(con_in[0])"とすることで, ポート con_in[0]への接続を解除できます.
- O. RT コンポーネントの作成方法を教えてください.
- A. RT ミドルウェア公式ページをご覧ください. 参考 URL:

http://www.is.aist.go.jp/rt/OpenRTM-aist/html/E3839EE3838BE383A5E382A2E383AB/RTE382B3E383B3E3839DE383BCE383BDE383B3E3838BE4BD9CE68890.html

- Q. 複数の Naming Service を使用する場合にはどうすればいいのでしょうか?
- A. 使用例『(エ) 複数の Naming Service を使用する場合』をご覧ください.
 3 つ以上の Naming Service を使用する場合は、
 <WorkDIR>/test/ConnectorModule/common/Connector_Header.pyにある配列を増やせば可能です.
- Q. 多数(100 個以上)のコンポーネントを動かす場合にも対応可能なのでしょうか? A. デフォルトの設定では 20 個まで対応可能です. それ以上の場合は,

<WorkDIR>/test/ConnectorModule/common/Connector_Header.py にある配列を増やせば可能です.

- Q. rtc-link を起動しないと、コネクタモジュールは使用できないのですか?
- A. いいえ,使用可能です. 3章 使用方法などでは,Connect や Activate の様子を明確に示すために rtc-link を起動していますが,rtc-link を起動しなくても使用可能です.

7. 補足(モジュールツリー)

